

北代縄文通信

縄文冬まつりを行いました！

平成26年1月18日に、縄文冬まつりが開催されました。近隣住民の世代間交流の場ともなっている恒例行事です。

参加したみなさんは晴天のなか、左義長や餅つきのほか、ビンゴやの当てゲームで親交を深めました。また、ゲームの後は、昔ながらの杵と臼でついた祝い餅と縄文鍋を楽しみました。



左義長と復元高床倉庫（縄文時代中期）

広場の案内サイン・柵を修理しました！

オープンから14年を経て、案内サイン（磁器陶板）や木柵が傷んできました。そこで、劣化した磁器陶板を耐久性（耐衝撃性）の高いステンレスホーロー板に更新しました。

広場では縄文時代のロマンを体感いただくため、富山県小矢部市桜町遺跡出土木材をモチーフとした木柵などを設置してきました。しかしながら長年の間に支柱が傷み、柵の強度も低下してきました。このため、柵としての安全性を重視し、劣化した部分を金属の柵に更新しました。



修理した案内サイン



新設した金網柵

防火・危機管理訓練を行いました！

呉羽消防署員を講師に迎え、平成 25 年 8 月 8 日に広場で防火・危機管理訓練を行いました。酷暑のなか、協力してバケツリレーの訓練を行うなど、真剣に取り組みました。これからも定期的に訓練を行い、火災等の予防に努めながら、来場される皆様を万全の体制でお迎えいたします。



火災予防の心得を学びました



消火器の取扱いの訓練



バケツリレーの訓練



非常時の通報訓練



心肺蘇生法および AED（自動対外式除細動器）の取扱いの訓練

北代縄文広場ボランティアの会 研修旅行記—平成 25 年 11 月 6～7 日—

新潟長岡遺跡めぐりと縄文文化の里十日町 秋山郷・津南遺跡めぐり

見学施設 長岡市馬高縄文館、新潟県立歴史博物館、十日町市博物館、津南町農と縄文の体験実習館なじよもん、津南町歴史民俗資料館、縄文時代の集落跡ほか。

この度の研修旅行は、上記のように数多くの施設等を見学し体感してきたわけですが、私にとっては非常に勉強になり、新鮮な気持ちになる旅行でした。

長岡市馬高遺跡・三十稲場遺跡 信濃川左岸の河岸段丘には、「遠藤沢」と云う小さな沢を挟んで東側に約 5500 年前の馬高遺跡、西に 4500 年前の三十稲場遺跡という縄文時代の集落跡があります。この間、何と 1000 年もの経過があり、その後も弥生文化を経て今日があるのですが、これを考えると私たちの人生がなんと短いことか。お釈迦様、法然、親鸞、蓮如さんが説かれたように、この世に人として生かされている事の有難さを心しなければ・・・後生の一大事ですね。

中嶋外茂吉



火焰土器・火焰型土器・王冠型土器 火焰土器は 1936 年に馬高遺跡で最初に発見・復元された一つの土器につけられた愛称で、それ以外の類似した土器は火焰型土器と云い、区別されました。王冠型土器は、火焰型土器と全く違う意匠で、板倉式土器、勝坂式土器、そして曾利遺跡から出土した水煙渦巻文深鉢は、見事なものです。縄文時代中期中葉（約 5400 年前）には、波状口縁部の中空突起・胴部の文様のものがあり、何故この様なものが作られたのかこれらに興味を持ちました。何れもその製作技術の高さ、意匠性や芸術性には驚かされました。ミス馬高と云われる土偶、三角柱状土製品の紋様は、見ても厭きは来ません。あの岡本太郎も感動され、彼の制作作品にも影響したとのこと。大阪万博の太陽の塔にも、その一端が覗かれるとのこと。土器は青銅器文化、鉄器文化になってからも使用され続けたのですが、鍋・鉢・甕・壺等、い

ろいろの用途に使われており見事ですね。またこれをどのようにして作ったのか？焼くときはどうしたのだろうか？野焼き、窯、燃料は？いろいろ考えるとロマンが広がります。空想、想像への世界に入ります。

石器群 石器類は約 27,000 年前以前から使われていた。これ等を上手く使い分けて生活の中に取り入れていた。弓、矢を使い、いろいろの動物を捕え、食用にする。動物たちには、人は一番恐ろしい動物だと思ったでしょう。火を使い、道具を使い、家畜を育て、人はなんと素晴らしい生き物でしょう。

なじよもん(農と縄文の体験実習館) 私はここに一番興味を持ちました。石器、土器、縄文、弥生の各時代の生活や文化を知ろうとすると、体験学習が一番知識を身に付かせると思います。火おこしにしろ、土器づくりにしろ、埴輪づくりにしろ、体験してこそ、その苦勞が解ります。書物を読むだけでは実感が湧きません。ましてや耳学問では駄目だと思います。体験からくる実感による知識からは、工夫が生まれ、新しい創造を生み、独創性が生まれると思います。新鮮さを感じます。これが大事だと思います。

ここでの学芸員の説明には、熱意が感じ、本物を感じました。このことが結果的に町起こしの一端になり、住民意識の変化につながり、誇りにも成ったでしょう。今度の研修旅行で多くの立派なジオラマを見学しましたが、これは如何かなと思いました。類似のジオラマは、一時各種テーマパークのように少しの違いを出したところで成功しなかったように、ジオラマはジオラマその程度です。同じ真似物は駄目だと思います。その点ここ（なじよもん）は、興味・好奇心が湧きます。そしてもう一度来てみたいと思わせ、リピーターになりたいと思いました。

富山県でも、県全体で県内古代文化に興味を持つ素人の集まりで、学芸員集団が顧問になって指導する会費制クラブにするのは、いかがだろうか。その中に各分科会を作り、複数所属も可能にしてはどうだろう。



なじよもん（農と縄文の体験実習館）での研修

北代縄文広場ホームページ

<http://www.city.toyama.toyama.jp/etc/maibun/index.htm>

北代縄文通信 第 38 号：編集・発行 富山県教育委員会 埋蔵文化財センター